

暗闇はおいしく楽しい

真っ暗闇の中で食事をし、視覚障害者の世界を体験するレストラン「ダン・ル・ノワール（暗闇の中で）」がパリ市民の人気を集めている。

入り口のバーと調理室のほか照明はなし。光を出しそうな携帯電話や腕時計、ライターなどは店に預ける。客同士が肩に手をかけて一列になり、ウェーターやウエートレ

スに導かれて席につく。

仏人ビジネスマンのエドゥアール・ドブログリさんらが「社会に貢献でき、かつ利益が出せる事業を」と視覚障害者団体の協力で04年に開店。ロンドンとモスクワにも支店を開いた。客を案内する店員は視覚障害者だ。

料理は本格フレンチのフルコース。慣れない客はうまくナイフで肉が切



れなかったり、つごうとしたワインがグラスからあふれたりして四苦八苦。だが意外な効用も。

「何も見えないので味覚と聴覚に神経が集中し、会話も弾む」（店員）のだとか。（パリ＝沢村瓦）